

令和3年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書①

【4段階評価 A(4) = 思う B(3) = だいたい思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

○ 学力の向上

重点目標	目標達成のための 努力実践事項	学校の自己評価コメント (○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)	自己 評定	関係者 評定	学校関係者コメント
◎ 児童の学力向上と職員の授業力向上に努める。 ◎ 学習内容の確実な定着を図り、学力テスト等で全国平均を上回る。 ◎ 年間全校平均図書貸出冊数100冊以上を達成し、児童が読書に親しんでいると実感できるようにする。 ◎ 家庭学習の習慣化を図る。	校内研究で「ICTを活用した授業改善」に取り組む。 授業の中で習熟の時間やまとめる時間を設定する。 学びの礎となる読書活動を推進する。 家庭学習の習慣化に向け保護者の協力を得る。	○ ICT機器の活用に向けての研修や算数科における授業研究会(3回)を通じて、日々の授業でICTを利用した授業に取り組むようにしている。複式学習や習熟を図る場面で期待できる。 ◇ 「授業でわかる・できるようになった」と感じていると回答した児童が95.5%である。 ◆ タブレットPCの長時間使用による影響が少し心配である。 ○ 授業で習熟の時間やまとめる時間を設定しており、昨年度の国語と算数のCRTテストで、ほぼ全学年全国平均を上回った。 ● 定着の見届けと時間内で解答する力の育成が課題である。 ◆ 19%の保護者がC・D評価であり、評定も2.8とやや低い。 ○ 週1回の読書の日の設定、毎月のくれよん号の利用、授業に関連した学級図書の充実、図書館サポーターやボランティアによる読み聞かせを実施し、現在の平均読書冊数は80冊である。 ◇ 読書に親しんでいると回答した児童は、81.8%である。 ◇ 保護者のA・B評価は86.7%であり、「宿題で振り返りができている。」「もう少し充実してほしい。」という意見がある。	3.3	3.9	・ICTを使えると、理系に進む女子も増え、就職の選択肢も広がると思う。 ・宿題の丸付けで、子どもの躓きに気づくことがある。家庭学習のメリットを伝えてほしい。

《課題と改善点》(案)

- * 引き続き「ICT機器を活用した授業改善」に取り組み、教員の授業力向上を児童の学力向上につなげる。
- * 授業の中で習熟の時間やまとめる時間を設定し、児童一人一人の達成状況を見届けることで、学習内容の確実な定着を図る。
- * 読書活動を継続して推進し、児童が読書に親しんでいると実感できるようにするとともに、児童の読解力を高める工夫を実践する。
- * 保護者に協力してほしい事柄を整理し、啓発することで、児童の家庭学習の習慣化を図る。

令和3年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書②

【4段階評価 A(4) = 思う B(3) = だいたい思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

○ 豊かな心の育成

重点目標	目標達成のための 努力実践事項	学校の自己評価コメント (○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)	自己 評定	関係者 評定	学校関係者コメント
◎ 全児童が「学校が楽しい」と言えるようにする。	思いやりの心や温かい人間関係の醸成に努める。	○ 日常の指導や道徳及び学活における指導を通して、相手を思いやる行動が取れる児童を育てる指導を行っている。	3.4	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS に関連した犯罪の怖さについては、きちんと教えてほしい。 ・ 成長段階で人間関係のトラブルはあって当然だと思う。だが、一人で悩まないように、子どもが相談できる体制と雰囲気を作ることが大事である。
◎ 自信をもって人生を生き抜く基礎力を育てる。		◇ 学校の様子や家での会話から学校が楽しいことが伺われる。			
◎ 気持ちの良い挨拶や返事ができる児童を育成する。	◆ 児童1名と保護者2名がC評価であった。				
◎ 児童のボランティア精神を培う。	◆ 他の児童等との関係で相談したところ、その日のうちに対応してもらえたが、その後の付き合いがどうなるか心配もある。				
	児童の自己肯定感を高める活動や環境を整備する。	○ 自他の良いところに気付かせる活動や作品評価に努めた。			
	集会や日頃の指導で、挨拶や返事について児童への意識付けを行う。	◇ 90.9%の児童が「自分にも友だちにも良いところがある」と回答している。			
	身近な環境整備など、自らできることを実践するよう働きかける。	○ 朝の職員室等で挨拶をする児童や廊下等で立ち止まって挨拶する児童が増えたが、気持ちの良い挨拶や返事ができるまで至っていない児童、集会等で声が小さい児童もいる。			
		◆ A・B評価の児童の割合は、72.7%である。			
		● 清掃やボランティアを自主的にやる意識や喜びについて引き続き指導したり、ボランティアのきっかけや児童の活躍する場を設定したりする必要がある。			

《課題と改善点》(案)

- * 道徳教育や人権教育の推進を通して、思いやりの心や温かい人間関係の醸成に努め、全児童が「学校は楽しい」と言えるようにする。
- * 児童の自己肯定感を高める活動や環境の整備を継続して行い、児童が自信をもって人生を生き抜く基礎力を育てる。
- * 集会や日頃の指導で意識付けを行い、全校児童が気持ちの良い挨拶や返事ができるようにする。
- * 清掃やボランティアを自主的にやる意識や喜びについて指導するとともに、児童が活躍する場を設定することで、児童のボランティア精神を培う。

令和3年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書③

【4段階評価 A(4) = と思う B(3) = だいたいと思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

○ 健康・安全

重点目標	目標達成のための 努力実践事項	学校の自己評価コメント (○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)	自己 評定	関係者 評定	学校関係者コメント
◎ 児童一人ひとりの 体力向上に努め、学校 平均を県平均に近づ ける。 ◎ 健康・安全意識の向 上と食育の推進を図 る。 ◎ 児童の事故を未然 に防ぎ、命を守る。	体力向上プランに基 づき、体育の時間の運動 量の確保と体力向上の ための指導を継続して 行う。 毎日の健康チェック と早寝・早起き・朝ごは ん、健康・安全・食育に ついて家庭との連携を 図る。 避難訓練を充実させ、 定期的な安全点検や児 童への安全指導を确实 に行う。	◇ 86.4%の児童が「体力が向上している」と回答している。 ○ 体育の時間の継続的な取組が児童の体力向上につながっていると考えられ、体力テストで女子4名がA判定であった。 ◆ 保護者から「体力向上プランをよく知らなかった。」「体力向上の指導について実際が分かりづらい。」という意見があった。 ◇ 「健康・安全に気をつけて生活し、食に感謝して好き嫌いなく食べるようにしている。」と回答した児童が81.8%である。 ○ 毎日の健康チェックや定期的な保健だよりや食育だよりを通じて家庭との連携を図った。 ◆ 早寝・早起きなどのチェックカードがあるとよい。 ○ 噴火・地震・不審者・火災に対応する避難訓練を行い、非常時の対応の在り方を確認している。 ○ 定期的な安全点検や予測される危険箇所の修繕にも努めた。	3.4	3.8	・体育の時間や昼休みの 遊びで体力を付けて ほしい。

《課題と改善点》(案)

- * 体力向上プランの周知を図り、体育の時間の運動量の確保と体力向上のための指導を継続して行う。
- * 毎日の健康チェックと早寝・早起き・朝ごはん、健康・安全意識の向上、食育の推進について、家庭との連携を図る。
- * 噴火・地震・不審者・火災を想定した避難訓練を充実させるとともに、事故を未然に防ぐ定期的な安全点検や児童への安全指導を确实に行う。

令和3年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書④

【4段階評価 A(4) = 思う B(3) = だいたい思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

〇 ふるさと教育

重点目標	目標達成のための 努力実践事項	学校の自己評価コメント (○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)	自己 評定	関係者 評定	学校関係者コメント
◎ 夏尾らしさを生かして、魅力ある学校づくりをめざす。 ◎ 伝統芸能『奴踊り』を継承する。 ◎ コミュニティ・スクールとして、より良い学校づくりをめざす。	地域の素材や人材を使った体験学習を工夫し、地域の方とふれあえる場を位置づける。 発表の場で、児童が自信をもって踊れるように練習指導を行う。 学校からの情報発信に努めるとともに、学校運営協議会をはじめ、地域の方や保護者の意見を聞く場を大切にする。	○ 児童・職員とも A・B 評価が 100% である。 ○ 総合的な学習の体験学習は、参加学年を整理して実施した。 ◇ 夏尾小ならではの貴重な体験があり、保護者同士や学校と保護者と関係性でも距離を近く感じられるのも大変良い。 ◇ 参観日や PTA 行事等で地域の方々ともふれあえた。 ● 事前の打ち合わせを充実させる必要がある。 ◇ 体験入学以外の児童の 95% が A・B 判定である。 ◇ 小・中合同の奴踊りの姿を見ると元気が出る。もっと披露できる場があるとよい。 ○ 保護者の世代では残念ながら奴踊りをしていないが、今後も夏尾の伝統芸能としてしっかりと指導していきたい。 ○ 児童・職員とも A・B 評価が 100% である。 ○ 学校だよりや学級通信、学校のホームページを通じて、学校の取組や子どもたちの様子を可能な限り発信した。 ○ 今後も、学校運営協議会委員や PTA 三役の意見、学校評価アンケートで寄せられた保護者の意見を参考にしながら、より良い学校づくりをめざしたい。	3.5	3.9	・昔は、青年団があつて賑やかだった。地域に、昔ながらのいろいろなことを知っている人がいると思う。地域と学校がお互いに win win の関係になれると良い。

《課題と改善点》(案)

- * 夏尾の素材や人材を使った体験学習を工夫して行い、児童が地域の方とふれあえるよう、事前の打ち合わせを充実させる。
- * 『奴踊り』を今後も夏尾の伝統芸能として位置づけ、練習指導や披露する場の設定を通して継承していく。
- * 情報発信に努めつつ、学校運営協議会をはじめ、地域の方や保護者の意見を聞く場を大切にしながら、より良い学校づくりをめざす。